

「コ・ファシリテーター方式」によるベーシック・ エンカウンター・グループのファシリテーションに 関する事例研究：〈積極的活性化〉と〈自発性尊重〉の コンビネーションを中心に

榊, 祐子
筑紫女学園大学

野島, 一彦
九州大学大学院人間環境学研究院

<https://doi.org/10.15017/917>

出版情報：九州大学心理学研究. 4, pp.315-323, 2003-03-31. 九州大学大学院人間環境学研究院
バージョン：
権利関係：

「コ・ファシリテーター方式」によるベーシック・エンカウンター・グループのファシリテーションに関する事例研究

—＜積極的活性化＞と＜自発性尊重＞のコンビネーションを中心に—

榎 祐子 筑紫女学園大学
野島 一彦 九州大学大学院人間環境学研究院

A case study on facilitation of a basic encounter group by “Co-Facilitator Method”
—Focus on the combination of positive activation and respect for spontaneity—

Yuko Sakaki (*Chikushi jogakuen university*)
Kazuhiko Nojima (*Faculty of human-environment studies, Kyushu university*)

The purpose of the present study is to discuss the differences of facilitation between a facilitator and a co-facilitator in a basic encounter group by the “Co-Facilitator Method”. The group was conducted in 4 days 3 nights in 9 sessions which consisted of a facilitator, a co-facilitator and 9 members. The group structure and the group process were described. We focused on the combination of positive activation and respect for spontaneity in facilitation and then we investigated that how these different facilitation have an effect on the group.

Keywords: facilitation, basic encounter group, “Co-Facilitator Method”

1 はじめに

ベーシック・エンカウンター・グループは、1970年代に日本に導入された。村山（1992）は、現代社会におけるエンカウンター・グループの役割として、真実の自分になれる場、変化の激しい時代に生きる再学習の場、心理治療の代役として、新しい人に出会える場、の4点を指摘しているが、このようなことを求めて多くの人がエンカウンター・グループに参加している。しかし、そのような役割がうまく果たされるかどうかは、ファシリテーターによるところが大きい。

そうしたことから、ファシリテーターの養成、訓練は重要であり、研究も進められている。野島・安部（1985）や野島（1985）は、グループ・ファシリテーター養成のための実践活動として、①コ・ファシリテーター方式（初めてファシリテーターをすときにベテランのファシリテーターとコンビを組んで行なう）、②スタッフ・ミーティング、③相互啓発方式、④養成のためのプログラム、⑤ Peer-Facilitator Training、⑥外部のファシリテーターの招へい、⑦グループ臨床カンファレンス（ファシリテーターを体験したグループについての事例検討）、⑧グループ臨床研究会などを挙げている。

このような種々の養成、訓練の活動のなかでも、近年はとりわけ「コ・ファシリテーター方式」の実践と研究

が積極的に行われている。

福田・野島（2002）は「コ・ファシリテーター体験」の事例検討を行なっているが、それによると、コ・ファシリテーターはグループを通して、「ファシリテーター意識」の自覚、「ファシリテーション行動」の実践、及びファシリテーターの行動の「観察学習」を行っていることを指摘している。

また内田・野島（2002）は、ファシリテーターとコ・ファシリテーターの「ちがい」に注目し、「コ・ファシリテーター方式」の意義としては、グループの多面的理解や相補的働きかけ、また両者の「ちがい」を認識することで、コ・ファシリテーターが自分の持ち味を活かしたファシリテーター像の構築に役立つといった点を挙げている。

しかしこの研究では、「コ・ファシリテーター方式」によるエンカウンター・グループのファシリテーターとコ・ファシリテーターの「ちがい」の意義は論じられているが、グループ・プロセスのなかで「ちがい」がどのように表れ、それがどのような影響を及ぼすかについては、詳細に述べられていない。

そこで本論文では、グループ・プロセスにおいて、両者の「ちがい」が調和的・不調和的という視点から見るとどのようなコンビネーションになっており、それがファシリテーション上はどのような影響をグループに与えて

いるのかを、丹念に事例検討したい。

なお、「ちがいに」には様々な側面が考えられるが、本論文では、「働きかける」「active」という意味での「積極的活性化」と「待つ」「passive」という意味での「自発性尊重」という相反する二つのファシリテーション機能を便宜的に取り上げたい。

II 事例のグループ構成

1. ベーシック・エンカウンター・グループの位置づけ

このベーシック・エンカウンター・グループは、某大学附属看護学校の授業の一環として、ある年の3月に学外研修施設にて3泊4日の合宿形式で実施された。看護学校に在籍する2年生36名が4グループに分かれて参加し、本研究で発表するのはそのうちの1グループである。グループ実施要項に記された目的は「自分と他人を知り、新しい対人関係を結ぶ基とする。」、目標は「1. 自己を客観的に見つめ、今後の自己のあり方を考える。2. 友人を知り、真の友情を築く。」であった。

2. グループ編成

本ベーシック・エンカウンター・グループは9名のメンバーと2名のファシリテーターから編成された。メンバーは全て女性(20代前半)で、そのうち、A子(積極性がなく、意思表示がない)、K子(ストレスに弱く、身体症状が出やすい)、M子(柔軟性に欠ける)、Y子(少し前に姉を失くす。)との情報が学校側より寄せられた。

メイン・ファシリテーター(以下 Fac.)はF(50代男性、大学教員、エンカウンター・グループのファシリテーター体験多数回)、コ・ファシリテーター(以下 Co.)はG(30代女性、大学研究員、ベーシック・エンカウンター・グループのファシリテーター体験2回、メンバー体験回数)であった。

3. スケジュール

1日目=13:30-15:30:オリエンテーション, 15:30-17:00:第1セッション, 19:00-22:00:第2セッション。

2日目=9:00-12:00:第3セッション, 13:30-17:00:第4セッション, 19:00-22:00:第5セッション。

3日目=9:00-12:00:第6セッション, 13:30-17:00:第7セッション, 19:00-22:00:第8セッション。

4日目=9:00-11:00:第9セッション, 11:00-12:00:まとめ。

4. 場所

オリエンテーション、まとめは参加者全員(50名程度)が入れる広さの会議室、セッションルームは8畳ほどの和室が用いられた。

5. リサーチ

参加者全員に対して、グループ開始前、終了後に参加意欲度や期待度、満足度等を記入する「参加者カード」、

各セッション終了後に感想や魅力度を記入する「セッションアンケート」の提出が求められた。参加意欲度ならびに期待度とは、グループ開始前に参加者がグループへの参加意欲ならびに期待について、7段階評定(1:まったくくない~4:どちらともいえない~7:非常にある)で回答した数値である。満足度については、グループ終了後に参加者のグループへの満足感を7段階評定(1:非常に不満~4:どちらともいえない~7:非常に満足)で回答してもらった。さらに魅力度は、毎セッション終了後、メンバーが各セッションに対して感じた魅力を7段階評定で答えたものである(まったく感じない:1~4:どちらともいえない~非常に強く感じる:7)。

III 経過

1. 参加前の気持ち

グループ開始に先立ち、オリエンテーションにおいてメンバーが「参加者カード」に記した自由記述、グループへの参加意欲度、期待度は以下のとおりである。()内は標準偏差を示している。参加意欲は平均=4.64 (SD=1.13)。期待度は平均=4.36 (SD=0.97)。

A子:どんなことをするのか想像できないから不安。友達同志の中が深まればいいが、逆に関係が悪くならないか不安。意欲度:5, 期待度:2/O子:セッションがたくさんあり、時間も長く何をするのか不安。数も多いのでたいくつになりそう。意欲度:4, 期待度:4/J子:授業の一環で参加することになった。新しい発見ができるのではないかと期待している。意欲度:5, 期待度:5/K子:何をするのかわからないが、授業の一つとして認識している。意欲度:2, 期待度:5/T子:先輩達にプールに入ったりすると聞いた。せっかくの機会なので自分を見つめられたらいいと思う。意欲度:4, 期待度:5/H子:グループわけが気になる。何が始まるのかわからないので不安。期待も少しある。意欲度:5, 期待度:5/M子:参加後、私がどんな精神状態になるのか不安。この研修で人間関係がくずれたらどうしようと不安。意欲度:4, 期待度:4/C子:どういったことをするのかわからないので、何のために来てるかよくわからないが、楽しみな気持ちでいっぱい。友達のいやな所を言い合ったりすると聞いたので不安。意欲度:6, 期待度:4/Y子:何を、どのような学びができるか不安がある。みんなと一緒にいることに嫌気がささないか不安である。意欲度:5, 期待度:4

続いて、コ・ファシリテーターの自由記述および意欲度と期待度、ファシリテーターの意欲度と期待度を記す。

コ・ファシリテーター:コ・ファシリテーターとしてグループへの参加は2回目。施設に行く途中でファシリテーターと話をしながら来たので、いくぶん気持ちは楽になったような気がする。グループで起こっていること

した。魅力度：6/K子：ファシリテーターについては記入なし。自分の動きについては、どこから話せばいいのか悩んだ。魅力度：5/T子：話を進めようとしてくれたので、スムーズにすすんだ。自分の話を聞いてくれているのが伝わり、話しやすい雰囲気にしてくれた。魅力度：記入なし。/H子：それぞれ自分の話をしてくれて、少し身近に感じた。魅力度：6/M子：自分の思いを言ってくれた。魅力度：6/C子：沈黙の間、話すことについて考えているのかなあと思った。魅力度：5/Y子：進行役みたいな形になってしまって、悪いなあとは思いつつも頼ってしまうかな。魅力度：6

[コ・ファシリテーターの感想] 魅力度：6

自分の中でCo.としての位置が少し見えてきた。みんなが、Fac.がどう方向づけてくれるか待っているように感じた。満足した点は、前回よりもみんなが不安を感じずに過ごせていたように思えたこと。心残りのことは、メンバー同士のインタラクションがもう少しあれば。

[ファシリテーター] 魅力度：5.75

自分はかなりアクティブに動いている。少しリードしすぎか。(Co.についてのコメントなし)

●第3セッション(2日目：午前)

①Fac.が<1日終わってみんなの輪郭が見えてきたような気がします。>とT子、K子に対する印象を述べる。T子は<何をしたいのかいろいろ浮かんできたのですぐに言えた。>と発言。Fac.が<2つに分かれてきているように思います。言葉でのやり取りを通して関わる人、聞く人と。A子さん、Hさんは退屈では?>。H子は「自分の順がまわってきて、後は聞く番になったので安心してしまった。」と話し、A子も同様に答える。それに対し、Fac.が<聞いてみるという関わりもあるが、それはどうか。>とたずねると、A子は隣のメンバーを見たり、つついたりした後、小声で「あまり得意ではない。」と答える。Co.が《今のやりとりをみていると、私もA子さんだったら、緊張するかな。質問されて、自分の答えをみんなが待つという状況になると。》と言う。

②寮についての話。Y子が自分は声が大きく、寮で声が聞こえてしまうことを話す。T子は人によって声のトーンが変わること、Co.も以前住んでいた会館のことや現在住んでいるところの話をする。

[メンバーの感想] 魅力度=5.70 (SD=0.71)

A子：みんなの話を引き出して楽しい。魅力度：6/O子：みんなと同じような立場で話ができたと感じた。魅力度：5/J子：進行中心というかんじでなくて、メンバーの一人というかんじが強かった。魅力度：5/K子：興味深い。魅力度：5/T子：自分のプライベートな部分についても話してくれてより親近感を持てた。魅力度：5/H子：みんなが話せるよう、働きかけしてくれた。魅力度：6/M子：先生方の知らない一面

を聞いて、「おっ」と思うことが多かった。魅力度：6/C子：人の話をすごく聞いてくれているとすごくわかった。魅力度：6/Y子：自分のことを話してくれたので、11人の1人になれてきたなあと思った。魅力度：7

[コ・ファシリテーターの感想] 魅力度：6

メンバーが発言の回数は違うものの、一人一人のペースで過ごせていたように思う。Fac.については、リードが多かったがそれがグループを動かすいい刺激になっている。順番に話すというよりも、メンバー間で動けるようになりつつある。穏やかに話が進む感じ。Y子、O子が輪に入れてない感じがして、少し気になる。

[ファシリテーター] 魅力度：5.75

自分はゆっくり、リラックス。Co.は自己開示をしている。

●第4セッション(2日目：午後)

①Fac., Co.が部屋に入り、全員が揃うと、J子が「あの一、天気がいいですね。」とどこちない調子であたりを見回しながら口火を切る。K子が「散歩がしたいです。」とはっきりとした口調で言う。Fac.が<小学校の学芸会みたいです。>。私”少し体が動かしたい感じがします。>。みんなうなずくものの、しばらく沈黙。K子が「先生、どこか行くところはありますか。」とたずね、Fac.が3つの場所を提案する。多数決で、外を散策することにする。

②施設の玄関に集合する。20分ほど歩いて、平原につくとメンバーははしゃいで、中に入っていくものもいる。全員で写真を撮る。ビジターセンターではメンバーは思い思いに動いている。部屋に戻りセッションアンケートを記入して終了。

[メンバーの感想] 魅力度=5.95 (SD=0.78)

A子：歩くのがはやかかった。魅力度：6/O子：話ができ少し距離が近づいたような気がした。魅力度：6/K子：いろいろ話せた。魅力度：6/J子：個人的なかわりができた。魅力度：5/T子：一緒に歩いて行って、色んなところにも案内してもらいました。魅力度：6/H子：いろいろ情報提供してくれてよかった。魅力度：7/M子：また親しくなれた。魅力度：6/C子：とても自然に話すことができた。魅力度：7/Y子：いろいろな話を聞かせてくれました。魅力度：7

[コ・ファシリテーターの感想] 魅力度：5

散策途中、メンバーはずっと同じペアではなく、変更しながら歩いていた。みんなの仲のよさを感じた。自分は、メンバーと一緒に歩いたり、1人で動いたりしていた。みんなと関わろうという気持ちを無理に出すわけではなく、動きたいように動いていた。

[ファシリテーター] 魅力度：5.5

自分はリラックスしている。(Co.についてのコメント

なし)

●第5セッション (2日目：夜)

① Fac.が、<メンバーのお父さんが自分と同じ年に生まれた人が何人かいて複雑な気持ちになった><大学進学の子どもについて、やっていけるんだろうかという思いがある>などが語られる。Fac.からメンバーに<寮での生活はどうか>という質問が投げかけられる。T子は「電話の回数が増えた」、H子は「何もしたことがなかったが、何とかやっている」、J子は「親のしつけが厳しかった」など話す。両親に対しての思い、恋愛の話が続く。M子、A子らが話した後、沈黙となり休憩に入る。

②沈黙が20分ほど続く。T子、J子はあたりを見回し、落ち着かない様子。J子がFac.の結婚のきっかけについて質問する。それから恋愛の話、相手にどう思いを伝えるかなどについてM子、J子、K子らが思い思いに語り、やりとりが続く。J子が「なんだか恋愛相談みたい。」と涙。C子が「中学での転勤をきっかけに殻を作るようになった」ことを話した後、Y子が「みんなの話を聞きながら、メンバーは自分のことを照らし合わせていたのではないか。」と切り出し、転校が多かった自分の経験を語る。

[メンバーの感想] 魅力度=6.00 (SD=0.33)

A子：真剣に聞いてくれるのではなしやすい。魅力度：6/O子：自分の父親と照らし合わせて、父親としても娘に対する考えとか考えさせられた。魅力度：6/K子：新鮮だった。魅力度：6/J子：アドバイスをしてくれ、自分の気持ちがまとまりやすかった。魅力度：6/T子：ゆっくり話を聞いてくれて、それぞれに話も振ってくれていたの、みんな発言できていた。魅力度：7/H子：みんなが話せるようにしてくれて、自分の考えを言っていた。魅力度：6/M子：個人個人の恋愛観について意見や考えを言っていた。魅力度：6/C子：私たちにその場をゆだねていたような気がした (いい意味で)。魅力度：6/Y子：いろいろなことについて話したけど、年上ながらも自分は先輩なのだと思っているわけでもなく素直な気持ちを話していた。魅力度：6

[コ・ファシリテーターの感想] 魅力度：5

メンバーから口火を切るのは難しいが、メンバーの発言が増え、相互のやりとりが増えてきたように思う。

[ファシリテーター] 魅力度：6

(休憩前は)話題を自分から出した。休憩時にCo.に<メンバー同士の発言が少ないと思っているようだから、そのことをグループで言ってみたら>と話していたのに、切り出してくれず、どうしようかと困っていたところで、J子が発言してくれてグループは動き始めた。それ以後は、Fac., Co.は明確化などをして関わった。

●第6セッション (3日目：午前)

①5分ほどの沈黙の後、Co.が《昨日ゆっくりお風呂

に入って気持ちよかった》《初日は気が張っていたが、昨日は慣れて気がゆるみ疲れが出た感じがした》など語るが、再び沈黙。Fac.が<最初は自分が提案してセッションが始まっていたようだったが、昨夜からあまり積極的に話さないようにしようと思った。これからもそういうやり方でいこうと思うが、別に悪気があるわけではない。>と言う。沈黙の後、H子が「ゲームとかするのはだめか?」と問い、Fac.が<みんながどう思うかで決めることでは。>と答える。Co.がH子に《何かアイデアがあったのかな。》と聞くと、「特にはないが、したらおもしろいかと。」と返事する。

②Y子が、Co.の話聞いて、寮生と通学生の違いについて話し、メンバーは納得している。Fac.が指していき、J子は一人暮らしになって変わったことを話す。M子、K子は母との関係について感情を込めて語っていく。Fac.が<実家の人は?>と聞くと、C子が「感謝の気持ちを伝えるのは恥ずかしい」と話す。休憩後、A子、Co., T子が母に対する自分の思いを語る。

③Y子は「自分は父のことを思い出していた。」と言い、Fac.が<お父さんの存在が出てきて安心した。>と発言。K子、C子、M子、Co., J子が父の存在に対する自分の思いを、指名あるいは自分から話す。

[メンバーの感想] 魅力度=5.70 (SD=0.52)

A子：見守ってくれるかんで安心する。魅力度：6/O子：父親の立場で私たちの父親に対する思いを聞いて、いろんな意見を言ってくれた。魅力度：6/K子：いろいろきけて、また知りたいと思う。魅力度：5/J子：自分の気持ちを言い、決して進行する人だけでない、昨日よりみんなで作っているかんで。魅力度：5/T子：自分の立場での家族観を話してくれてそれぞれの思いを知ることができた。魅力度：記入なし/H子：一人一人の言葉をちゃんと理解してくれた。魅力度：6/M子：Fac.は父としての思いを言っていた。Co.はお父さんの話をしてくれた。魅力度：5/C子：私たちにまかせていた (良い意味で)。魅力度：6/Y子：受け身役で、すべてを受け止めてくれるので安心する。魅力度：6

[コ・ファシリテーターの感想] 魅力度：6

自分なりのかかわりができていたように思う。あまりにメンバーに口火を切りたいという思いにとらわれていたよう。自分がメンバーとして石を投げてみることで楽になった。人に対する自分の思いを感情的な深まりを見せながら話しているように思う。

[ファシリテーター] 魅力度：6

自分は、話題はリードしなかったが、発言は司会者的にリードした。メンバーが自発的に自分のことを語り始めている。(Co.についてのコメントなし)

●第7セッション (3日目：午後)

①メンバーは眠そうな様子で下を向いている。Y子が

「体がなままっているので、動かしたい気がするが何かあるわけではない。」と発言。M子がメモを持っており、卓球などいくつか候補を挙げる。結局は、Fac.が提案した室内ゲームをすることになる。輪になり、間違えた人の順位が下がっていくというルールで、特定のメンバーがよく失敗し盛り上がる。

②休憩後、メンバーから「先生に教えてもらったので、今度は私たちが教えます。」と別のゲームを提案。他にも2つほどゲームをして過ごす。罰ゲームもあり、みんな必死になる。

[メンバーの感想] 魅力度=6.07 (SD=0.67)

A子：一緒になってたのしんでくれた。魅力度：7/O子：みんなと一緒にゲームをしていて近くに感じた。魅力度：6/K子：連想がおもしろかった。魅力度：5/J子：参加者の一人としていた。魅力度：6/T子：私たちと同じように楽しんでくれたので、安心して楽しめた。魅力度：7/H子：ゲームを提供してくれて楽しかった。魅力度：7/M子：楽しそうだった。グループにとけこんでいた。魅力度：6/C子：一緒に楽しんだ感じがした。魅力度：6/Y子：楽しめていた。魅力度：6

[コ・ファシリテーターの感想] 魅力度：5

頭がスッキリした感じで息抜きになった。メンバーから何かをしたいという気持ちが伝わった。

[ファシリテーター] 魅力度：5.75

自分はリラックスして楽しんでいる。(Co.についてのコメントなし)

●第8セッション (3日目：夜)

①M子がトランプを持参しており、「何かゲームを教えて欲しい。」と言うが、Fac.<そういうモードではない感じがします。>と発言。15分ほど沈黙。Co.が、入院した経験から、メンバーが看護婦になって働くことが思い浮かんでいたことを話す。5分ほど沈黙。

②Fac.から<これまでのセッションでみんなの顔がいろいろ見えてきた。もっと知りたいという思いがある。カードで順番を決めて言えることを話すのはどうか。>という提案がされる。A子は水泳が得意であること、T子は自分の出身地に対する思いを語り、涙。休憩後、Co.の順だったが、《自分の思いを語るのはいいのだが、カードで順番を決めるのは抵抗があった。》と涙ながらに語る。Fac.が<カードを使ったのは、M子が持参しながら、結局使用していなかったから>とフィードバックがあり、順にメンバーが話していく。Y子は自分の姉が最近亡くなったこと、みんなに話したかったが言えなかったことを涙を流しながら話し、メンバーからは「気になっていたが、話題にできなかった。言ってくれてよかった。」と伝えられる。

[メンバーの感想] 魅力度=6.45 (SD=0.53)

A子：自分の思いをしっかりと言ってくれる。魅力度：7/O子：本音で話してくれたし、気持ちを受け止めようと真剣に聞いていたと思う。魅力度：6/K子：落ち着いて話を聞いていて安心した。魅力度：7/J子：助言がためになった。魅力度：6/T子：その人の思いをわかろう、具体化しようという思いが伝わってきて、またそのことを言葉にしている、素直にすごいと思った。魅力度：7/H子：自分の考えをきちんと主張してくれた。魅力度：6/M子：自分が思っていたことをかかず言っていた。魅力度：7/C子：自分の思いを言ってくれて私自身すっきりした。生徒ばかりでなく先生方ももっと思ったことを言っていたと思った。魅力度：7/Y子：みんなの仲間になりたいという思いが感じられた。魅力度：6

[コ・ファシリテーターの感想] 魅力度：6.5

記入なし

[ファシリテーター] 魅力度：5.5

Co.の発言をめくり、肯定的、否定的の両方の気持がある。複雑な気持である。

●第9セッション (4日目：午前)

①K子が「このメンバーでよかった。」と発言。T子は「人の話を聞いて自分がどう感じるかを考えさせられた。」と言う。J子は「昨日の夜、(グループの)みんなが進むということについて考えた。」と述べる。Co.は《みんなで進むというのは、みんなですべて安心して過ごせることのような気がする。》と語る。前夜のセッションについての思いが語られ、C子が「自分に自信が持てた。」と話したことに対して、M子、Y子からサポート的な反応が返ってくる。J子が「看護婦を通して自分を知る」と言ったことに、Y子、T子がコメントする。Y子は「昨日自分の思いを話せてよかった。」と言う。残り10分ほどは感想を話し、終了となる。

[メンバーの感想] 魅力度=6.82 (SD=0.33)

A子：みんなをさりげなく誘導してくれてすごく感謝しています。魅力度：7/O子：先生たちの本音を聞いて、このエンカウンターへの意気込みは私たちと同じなんだなと思った。魅力度：6/K子：連想が私の気持ちとあっていた。魅力度：7/J子：参加者の一人として感じられた。魅力度：7/T子：自分の感じたことや感想を率直に話してくれていた。魅力度：7/H子：安心してセッションにのぞめた。話を理解してくれた。魅力度：7/M子：4日間の感想をそれぞれ言っていた。魅力度：7/C子：Co.が話し方や表情から心の負担が少しなくなったかなと思ってうれしかった。先生にもこのエンカウンターにきてよかったと思って帰ってほしかったので、そう感じられてうれしかったです。魅力度：7/Y子：思いを受け止めてくれた。魅力度：7

[コ・ファシリテーターの感想] 魅力度：6.5

沈黙への感じ方がメンバーにとって変化してきたように感じられた。セッションを通して、メンバーそれぞれに気づきが起こっていて、力の強さを感じた。自発的にしかも自然に動いていた。暖かい雰囲気の中で、自分の気持ちと相手の気持ちを行き来しているようで、そこにいるのが心地良かった。

〔ファシリテーター〕 魅力度：6.5

自分も Co.も、メンバーの発言に時々リスポンスをした。

3. 参加後の気持ち

各メンバーが、参加者カードに記入した参加後の気持ちは以下のようなものであった。またグループへの満足度は7段階評定で平均=6.73 (SD=0.33) であった。

A子：みんなの中がすごく深まったと思う。グループメンバーもよかったし、ファシリテーターさんもすごくよくて、安心してセッションに参加することができた。自分がみんなそれぞれについて考えることができたし、みんなも私のことを考えてくれてるのがわかって本当に意味のあるものでした。満足度：7/O子：はじめは先輩たちの話を聞いて、どうなるのか不安だった。でも先生たちが自分たちも辛いことはしたくないと言ってくれたことで安心して参加することができた。みんなで1つのことについていろんな角度からいろんな意見を出しあったことで私の中でも考えが広がり、そこから自分なりのこれからを考えられたような気がする。満足度：6/K子：自分の夢を語り、家族のことを話していくうちに、今まで自分が一人で思っていたことを口に出してみても、それを他の人に認めてもらっている感じがした。「強い人」という印象をもたれているが、この9つのセッションにより、自分も多少流されてもいいかと思ったことを言ったことで、少しはマイルドさも入ったかな。満足度：7/K子：最初は何をするんだろうと不安から始まって、緊張した雰囲気に我慢ができなかったり、沈黙が居心地悪くてふきだして笑ってごまかしたりしていた。でも時がたつにつれ、いっしょうけんめい口に出していた自分の感情、言葉が少しずつ自然に気持ちを感じ取れるようになった。満足度：7/T子：はじめは沈黙という長い間があって、居心地があまり良くないように感じていた。ファシリテーターが司会みたいに進行してくれているのを気にして、沈黙があれば話し出そうと言っていた。それができずにもどかしく感じていたが、セッション7,8くらいから自主的に言えるようになってすごく満足のいくセッションとなってきているのを感じていた。満足度：7/H子：ファシリテーターも含めて、いいグループだと思った。いろいろな人の考えを聞き、みんなの知らない面を見つけあらたな発見があった。自分の中でも考えさせられることも多く成長できたと思う。みんなの前で自分の意見を言うことができ少し勇気が持

てた。満足度：7/M子：はじめはわけがわからなかった。けれどセッションごとにみんなの意見をたくさん聞いて、その意見を聞きながら自分の中で考えができていた。たった4日間の間に友達のことがたくさんわかってそしてなによりも自分のことがわかっていった。カンゴのグループだけでもできたと思うが、ファシリテーターがいなければこんなにも深まることにならなかったと思う。今、精神的に安定していてすごくうれしい。満足度：7/C子：最初は何のためにエンカウンターをするのかと思っていた。セッションを終えるごとに他人の見方や自分の考え方に変化があったり、感じるものがあって、4日間を終えた今では言葉で言い表せない何かを吸収できた気がします。満足度：7/Y子：自分の思い、グループの人の思いを聞いて、自分の思いとの比較などをし、自分の成長(心の)につなげられた。1つのことを、時間を、11人で共有しながら自分なりの成長ができた。満足度：6。

コ・ファシリテーターの自由記述には以下のように書かれていた。自分の思いや相手が言ったことに対して感じたことをいつもよりは多く言っていたように思う。今は、それがどう自分に影響してくるのか判断することはできないが、その思いを持ち続けて、あとでゆっくり味わえたらと思う。メンバーがセッションを通じて、自分なりの気づきがおこっていたことに大変うれしい思いがした。満足度：6。

ファシリテーターの満足度：6。

IV 考 察

1. 各セッションの検討

グループ・プロセスのセッションごとに、Fac.とCo.の「ちがひ」(＜積極的活性化＞と＜自発性尊重＞)が調和的・不調和的という視点から見た場合、どのようなコンビネーションになっていたのか、またそれがファシリテーション上、グループに与えた影響について丹念に事例検討したい。

第1セッション：①で、Fac.は最初から自己紹介をして、さらにメンバーにもそれを促している。②でも、Fac.は＜どんな期待がありますか？＞と問いかけている。つまり、早々と＜積極的活性化＞を図っている。これに対しCo.は、特に介入的な発言はせず、メンバーの＜自発性尊重＞の姿勢をとっている。コンビネーションとしては調和的であり、メンバーの感想からは、グループにとっても両者のこのようなあり方は、一定の安心感を生じさせていることがうかがえる。

第2セッション：Fac.は、①で前セッションについての質問の投げかけ、②で看護志望理由の問いかけをしており、＜積極的活性化＞を行っている。しかしこれについては、Fac.の感想をみると「少しリードしすぎか」と

述べており、気にしている。これに対し Co.は、自己開示はあるが、特にファシリテーション的な発言はない。感想では、「メンバー同士のインタラクションがもう少しあれば」述べ、メンバーの〈自発性尊重〉を期待している。コンビネーションとしては、Fac.の先走りに Co.がブレーキをかけることができていることから、調和的とは言い難い。メンバーの感想（「悪いなあとは思いつつも頼ってしまうかな」など）からも、そのようなことがうかがえる。

第3セッション：①では、Fac.はメンバーとグループへのフィードバック、関わり方の提案をしており、やはり〈積極的活性化〉をしている。これに対し Co.は、A子をサポートするような発言をしながら、やんわりと Fac.の〈積極的活性化〉にブレーキをかけている。②では、Fac.は特に介入的発言はない。Co.は自発的に自己開示をしており、自ら〈自発性尊重〉的な行動をしている。コンビネーションとしてはうまく調和している。メンバーの感想（「みんなと同じような立場で話ができなごめたと思う」「進行中心というかんじでなくて、メンバーの一人というかんじが強かった」など）からも良い印象を持っていることがうかがえる。

第4セッション：①では、メンバー側からの自発的提案が行われ、Fac., Co.はそれにのる形になっており、両者とも〈自発性尊重〉をしている。②でも、両者とも〈自発性尊重〉の姿勢を維持している。特に〈積極的活性化〉はしていない。異なったタイプでのグループに対する関わりという意味でのコンビネーションはないが、同じタイプのグループへの関わり方という意味でのコンビネーションはうまくいっている。メンバーの感想は、「話ができ少し距離が近づいたような気がした」など概ね肯定的である。

第5セッション：①では、Fac.が自己開示の発言をしており、これは〈積極的活性化〉となっている。②では、休憩時の Fac.と Co.の話し合いの筋書き（Co.が〈積極的活性化〉の発言をする）どおりではなく、メンバーが自発的にグループの流れをつくっている。この場面は、Co.が発言しなかったことが、メンバーの自発性を引き出しており、Co.の〈自発性尊重〉が非常にうまく機能している。前半は Fac.による〈積極的活性化〉中心で、後半は Co.による〈自発性尊重〉中心であり、コンビネーションとしてはとても調和的である。メンバーの感想（「みんなが話せるようにしてくれて、自分の考えを言っていた」「私たちにその場をゆだねていたような気がした（いい意味で）」など）からもそれがうかがえる。

第6セッション：①では、先ず Co.が自発的に発言し、Fac.は〈積極的活性化〉をしないということを述べている。②では、Fac.がやや〈積極的活性化〉を行なっている。Co.は〈自発性尊重〉の姿勢をとっている。③でも

Fac.が少しく積極的活性化〉をしているが、メンバーの自発的動きがかなり出てきている。コンビネーションとしてはうまく調和している。メンバーからも、「自分の気持ちを言い、決して進行する人だけでない、昨日よりみんなで作っているかんじ」「受け身役で、すべてを受け止めてくれるので安心する」といった感想がだされている。

第7セッション：①では、メンバーの自発的な動きに Fac., Co.はのっている。②でも、メンバーの自発的な動きに Fac., Co.がのっている。つまり、Fac., Co.ともに、〈自発性尊重〉をしている。異なるタイプでグループに関わってはいないが、同じタイプでグループへ関わるという意味でのコンビネーションはうまくいっている。メンバーの感想（「一緒になってたのしんでくれた」「私たちと同じように楽しんでくれていたので、安心して楽しめた」など）からもそれがうかがえる。

第8セッション：①では、メンバーの自発的提案に Fac.はのらず、Co.の自発的な自己開示にメンバーも反応せず、いまいちグループは動かない。②では、Fac.が順番で各自が語る機会をつくることを提案し、〈積極的活性化〉を図っている。これに対し Co.が、カードでの順番決めへの抵抗を述べ、〈自発性尊重〉を大事にしたいということ強く訴える。この場面は、Fac.の〈積極的活性化〉ペースが進行しているところに〈自発性尊重〉の立場から“これでいいの？”と問題提起をし、いい意味でブレーキをかけたことになり、結果的にはコンビネーションという点からみれば調和的である。ただ、Fac.の感想では、Fac.の心情は複雑である。ちなみに、Co.の感想は記入なしである。メンバーの感想（「本音で話してくれたし、気持ちを受け止めようと真剣に聞いていたと思う」「みんなの仲間になりたいという思いが感じられた」など）は非常に肯定的である。

第9セッション：①では、メンバーが自発的に発言していくことに、Fac.と Co.は時折リスponsする形であり、〈自発性尊重〉をしている。Fac.と Co.が同じタイプでグループへ関わっており、そのコンビネーションはうまくいっている。メンバーの感想（「参加者の一人として感じられた」「自分の感じたことや感想を率直に話してくれていた」など）はとても肯定的である。

2. 全体をとおしての検討

(1) 全体をとおしてみると、第2セッションだけが Fac.と Co.のコンビネーションが「いまいち調和的とは言い難い」状態であるが、他の8セッションは、調和的である。これは、今回の「コ・ファシリテーター方式」がかなりうまくいったということを意味し、メンバーの「参加後の気持ち」が肯定的になることにつながっていると考えられる。

(2) ただ、第8セッションは、結果的にグループにお

けるファシリテーションのコンビネーションとしてはうまくいっているのであるが、Fac.とCo.の心情としては、すっきりしていない。これは、Fac.とCo.のコンビネーションが「あうん」のごとくいかなくともグループはうまく展開することがあるということを示している。

(3) Fac.とCo.の「ちがい」に注目した場合、異なるタイプ（＜積極的活性化＞と＜自発性尊重＞）のコンビネーションしか想定していなかったが、事例検討をしていくと第4, 7, 9セッションのように、同じタイプ（＜自発性尊重＞と＜自発性尊重＞）のコンビネーションがあることが分かった。可能性として同じタイプには（＜積極的活性化＞と＜積極的活性化＞）という形も考えられるが、今回の3つのセッションはいずれも（＜自発性尊重＞と＜自発性尊重＞）という形であった。これはベーシック・エンカウンター・グループの基本原理がクライアント中心療法にあることをあらためて示唆する結果といえよう。

謝 辞

本論文をまとめるにあたり、ご指導をいただきました九州大学針塚進教授に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 福田麗・野島一彦（2002）ベーシック・エンカウンター・グループの「コ・ファシリテーター体験」に関する事例研究的検討，九州大学心理学研究，3，167-164.
- 村山正治（1992）エンカウンター・グループ，氏原寛・小川捷之・東山紘久・村瀬孝雄・山中康裕（編），（1992），心理臨床大辞典，培風館，293-301.
- 野島一彦（1985）グループ・ファシリテーターの養成をめぐる，九州大学心理臨床研究，4，99-105.
- 野島一彦・安部恒久編（1985）グループ・ファシリテーターの養成をめぐる，日本グループ・アプローチ研究会資料 No.1, 10-11.
- 内田和夫・野島一彦（2002），ベーシック・エンカウンター・グループのファシリテーター養成のための「コ・ファシリテーター方式」の意義に関する検討—「ちがい」に着目して—，第21回人間性心理学学会発表論文集，82-83.